

# 松沢小学校仮設校舎の多目的スペースの評価

—学校改築工事中の対応に関する研究 その1—

木村 信之

The Evaluation of Multipurpose Spaces in a Temporary Building of Matsuzawa Elementary School —The Case Study Under Reconstruction Process 1

Nobuyuki Kimura

## Abstract

Matsuzawa Elementary School (public, in Setagaya-ward) has been under complete reconstruction. The author proposed to set up multipurpose spaces in a temporary school building on the playground and three multipurpose spaces have been made available enabling various experimental activities to take place before the completion of the new building.

This study aims at proving the validity of this proposal. The author observed the use of the spaces for the first 3 months and did a questionnaire research on the pupils and teachers asking how they evaluated the multipurpose spaces.

The results revealed that they were used for various purposes during regular class hours and extra-class hours, and both pupils and teachers evaluated them positively. The author concludes that the initial elaborate plan to make available new spaces like multipurpose spaces can be effective in light of this practical experience.

*Key words: reconstruction process (改築プロセス), temporary school building (仮設校舎), multipurpose space (多目的スペース)*

## ● 仮設校舎における多目的スペース設置の経緯

世田谷区立松沢小学校は、平成20年度竣工を目指して学校施設の全面建て替えを進めている。そのため、校庭に仮設校舎を建設し、平成18年10月から仮設校舎に移り、旧校舎の取り壊しが始められた。平成18年度中に旧校舎の取り壊しが終わり、平成19年10月現在、基礎部分の工事が進行している。この改築事業に、設計担当者の協力者として今日まで関わる機会を得た。

改築の設計に当たっては、学校、児童の父母、地域を代表するメンバーを中心に構成された基本構想策定委員会で検討を行い、近年世田谷区で全面改築を行った他の小学校と同様、多目的スペースを持った校舎が計画された。この検討の中で、地域を代表する委員から多目的スペースは不要ではないかという意見が少なからず表明された。これらの委員は、多目的スペースのなかった時代に小学校教育を受けており、その記憶の中の小学校に不満がなかったことから、多目的スペースがなくても小学校教育はできるという考え方を持っていた。また、多目的スペースを設けて全面改築された世田谷区内の小学校の状況を見て、教室と多目的スペースの間に間仕切りを設けていない「廊下拡張型」の空間で、それぞれの教室部分を他の部分から家具を目隠しとして隔離し、教室部分の外に様々な家具や教



することを目的としたものである。

## ●研究の方法

調査は、仮設校舎の使用を開始した平成 18 年 10 月から 12 月の間、松沢小学校に赴き、多目的スペースを使っている状況を観察すると共に、2 学期終了時点を目安として、5・6 年生に対して「仮設校舎の好きなところ、きらいなところ」という題で場所とその理由を記述する作文、教員に対しては多目的スペースの評価に関わるアンケートを行った。

観察調査は、中休みとその前後の授業時間、多目的スペースがどのように使われているか、写真に撮り、継続的に観察した。調査は、10 月 30 日、11 月 7 日、11 月 14 日（アートフェスティバル期間中）、11 月 24 日、12 月 1 日（箱とイスの展示中）、12 月 5 日の 6 回行った。

児童の作文調査は 5・6 年生それぞれ 1 クラスの協力を得、5 年生 34 名、6 年生 37 名からの作文を得られた。

教員に対するアンケート調査は、13 名の教員から回答を得ることができた。

## ●多目的スペースの使い方

多目的スペースの学習面での使い方では、

①社会科の授業で松沢小学校周辺の商店街を児童が調べた結果について、学年全員が多目的スペースに集まった中で、ステージを設けてそこで発表する。(4 年生 写真 1, 2)

②授業時間中に一部の児童が多目的スペースの机を使い作業を行う。教師が一部の児童を多目的スペースに取り出して指導を行う。(5 年生 写真 3) 教室と多目的スペースに半数ずつ分かれ劇の練習をする。(低学年 写真 4, 5)

③多目的スペースを児童の作品の展示スペースとし公開する。(アートフェスティバル) などの場面を見ることができた。(写真 6)

特に、低学年(1・2 年生)の多目的スペースでは、コマやお手玉といった昔の遊び道具をはじめ、生活科や図工などで使う道具を、子供たちの目に触れるように棚に整理して多目的スペースに置き、これらを使った活動がいつでも行える空間の設えがされていた。(写真 7, 8)

中休みの生活・遊びの様子は、中学年・高学年では、多目的スペースにあるテーブル(キャスター付)上でのトランプなどのカードゲームが多く見られた。(写真 9)

その際、テーブルは児童の手で動かされ、遊びのグループ人数に応じたテーブル面の広さを取っている。また、多目的スペースのコーナーにテーブルで囲った小さなスペースを作り、自分たちの基地のようにして遊んでいる児童も見受けられた。(高学年 写真 10)

低学年では家具が動かされることはない。児童の遊び方としては、テーブル上を使って遊ぶばかりでなく、廊下や家具の間の床面で遊ぶ様子が見られた。(写真 11)

また、11 月 30 日、12 月 1 日の 2 日間、9 月中に実施された旧校舎のお別れ会のイベントの一つとして、児童がダンボールで製作した箱(高さ 1.2m、縦横 60cm×60cm~1.2m×1.2m)やイスを中学年の多目的スペースに並べ、自由に使ってもらう様子の観察を 12 月 1 日に行った。中休みになると、いつもに倍する 50~60 名の児童が殺到し、箱に出入りしたり、箱の内外でおしゃべりをしたり、箱の周りを駆け回るなど、活発な活動が続けられた。(写真 12)

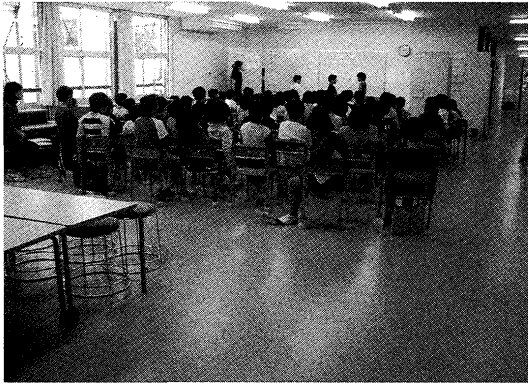


写真1 学年合同の発表授業

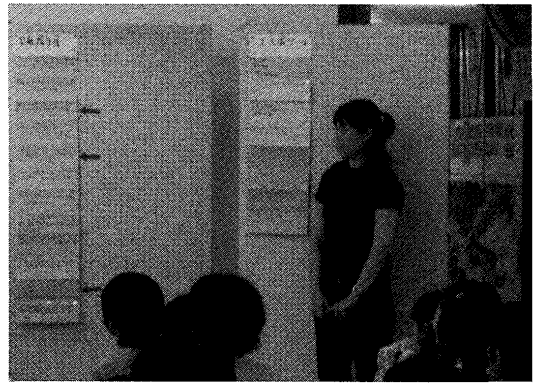


写真2 学年合同の発表授業



写真3 授業時間中の多目的スペースでの個別作業



写真4 劇の練習（低学年）教室



写真5 劇の練習（低学年）多目的スペース



写真6 アートフェスティバルでの展示

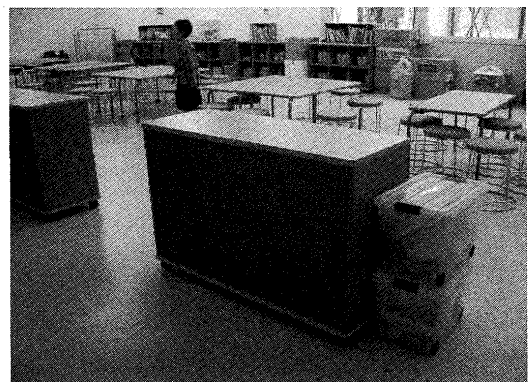


写真7 低学年の多目的スペース（全体）



写真8 棚に整理されている遊び道具



写真 9 中休みの様子  
(机上でのカードゲーム; 中学年)



写真 10 家具でコーナーに構成された籠もり  
スペース



写真 11 床面で遊ぶ児童 (低学年)



写真 12 箱とイスを置いた遊び場



写真 13 箱を修理している児童

遊びの中での箱の破損に対し、ガムテープをもって修理を行う児童がいるなど、自分たちの遊び場として大切にしたいという思いを感じさせる面も見られた。(写真 13)

このように、学習面、生活・遊び面共に多様な場面を見ることができ、特定の用途に限定されない多目的スペースの機能に沿った使われ方がすでに実現されている。個々の場面を見ると、1 学年(4 クラス)の集まる集会を行う上では、机を使用しない場合、1.5 教室大のスペースで足りること

が確認された。ところで、学級単位での通常の授業の中での多目的スペースへの一部児童の取り出しなどの併用は、教室が多目的スペースに面している学級のみが実施しており、教室に面して多目的スペースを設置することによる学習面での使い方の広がりを感じさせるものがある。生活・遊びの面では、スペース内の家具の種類、量、配置などの設えが児童の活動に及ぼす影響も確認された。机とイスが置かれている場合、3 年生以上ではカードゲームなどの静的な遊びしか見られなかったものが、机とイスの代わりにカラフルな箱を並べた場合は、活動的な遊び場に変貌している。児童にとって机とイスの存在は、そのスペースが学習に使う静的に振舞わなければならないというサインとなってい

ることを思わせる。1.5 教室大の多目的スペースの大きさは活動的な遊びでは 4 クラス（100 名以上）の児童には狭く、1 学年あたりこの 2～3 倍の広さが必要と思われる。また、1・2 年生のスペースでは床上で遊ぶ児童が多数見受けられ、床面を使うことを主眼とした多目的スペースの設えをすることも考えるべきであろう。

### ●多目的スペースの児童の評価

仮設校舎の好きな場所・きれいな場所についての作文調査では、好きな場所については 43 のスペース、部位について延 334 件、きれいな場所については 39 のスペース・部位について延 236 件のコメントが寄せられた。うち、好きな場所へのコメント数は、多目的スペースが最も多く、64 名（90%）の児童があげており、第 2 位のクラスルームの教室の 43 名（60%）を大きく引き離している。仮設校舎内の多くのスペースが好きな場所にもきれいな場所にも上っている中で、多目的スペースとパソコン室のみはきれいな場所にあげているものはいない。また、仮設校舎の建設によって校庭がなくなったことをあげたものは 5 名（7%）にとどまっている。使われ方の観察で、多目的スペースが児童の生活・遊びの場となっていることが確認された。多目的スペースを設けたことは、校庭がなくなることによって危惧された遊びの場の喪失感を、ある程度補完することになっているといえるのではないだろうか。

多目的スペースの好きな理由を見ると、「今までになかった教室なので新しい空間がうれしい」「広い」「きれい」「壁や床の色がカラフルで楽しい」「遊び道具がたくさんあり、いろいろな遊びができる」「移動棚で空間を自由につくって楽しめる」「広い空間があるため、好きなことができる」「低・中・高学年用に教室があるため、低学年生を気にせず安心して遊ぶことができる」「他学年とコミュニケーションがとれる」といったコメントが見られた。ここで明らかなように、在来型の校舎にはなかった開放的な広々とした感じを与える空間自体としての存在、そして多様な遊びや交流を気兼ねなくできるという、生活・遊びの場としての評価を見て取ることができる。

### ●箱とイスの評価

11 月 30 日と 12 月 1 日に多目的スペースに置いた箱とイスについて、実際に使って遊んだ 4 年生に対し、その評価を求めるアンケート調査を実施し、73 名の児童から回答を得ることができた。

箱（高さ 1.2m）については、展示した 4 つのサイズに関する質問では、縦横 1.2m×1.2m（52 名）、1m×1m（14 名）、80cm×80cm（5 名）、60cm×60cm（2 名）と、大きいサイズほど好まれ、また最も大きなサイズを選んだ児童が全体の 7 割を占め、数人で一緒に入ることのできる点が好まれている。また、どのような遊びに使いたいかという問いには、「鬼ごっこやかくれんぼ」「秘密の話や相談会議」「家にして中でおままごと」「迷路やお化け屋敷」「友達とごろごろ」「秘密基地」「本を読む」「重ねて大きい家にする」「トランプや消しゴム遊び」「イスを入れて遊ぶ」「店の屋台をつくる」など、多様な遊び方が記されており、箱の生み出す空間を活用しようとする、児童の多様な発想を引き出している。さらに、この箱をどうすればよいかという質問に対し、「中に模様をつけてみたい」「棚や机、イスをつけたい」「テレビやコンボをつけたい」「電気をつけて明るくしたい」「窓を大きくして光を多く」「カーテンをつけたい」「ゲームをつけたい」など、空間に手を加えることでより楽しい遊び場にしたいという能動的な意欲を感じさせる回答が寄せられている。

イスについては、「イスとりゲームをする」「積み重ねる」「机にする」「横に並べてベッドのようにして使う」「棚にする」「重ねて迷路にする」「箱の穴があるところにおいてドア代わりにする」「箱の中にいれて物置にする」「もっと大きい家を作ってその中に置く」「普段、机が足りなくてトランプができないときがあるから机にする」「跳び箱にする」「積み上げて高いイスにする」「長いイスにして友達と座る」「ピラミッドのようにする」「トンネルをつくる」と、これも多様な使い方があげられている。

これら、児童の様々な発想を誘発し、自ら遊びを創造していくことのできる遊び場が、児童には非常に魅力的な遊び場であることが、場面の観察、アンケートの結果からも見て取ることができる。

### ●多目的スペースの教員の評価

仮設校舎を旧校舎と比較しての評価では、よくなった点として4名(30%)が多目的スペースが設けられたことをあげている。一方、悪くなった点として、相談室がない(2名)、会議室がない(1名)、職員更衣室が遠い(2名)など、主として管理関係の専用室について不備と指摘する評価が寄せられている。また、多目的スペースが2学年に1箇所を割り当てているため、その使用について学年間の調整という新たな仕事が増えたということを悪くなった点としている回答も1例見られた。

また、多目的スペースに関する評価(表1)では、学年教室(多目的スペース)があることによるゆとり感、学習面での用途、児童の生活面での用途とも、ほぼ肯定的な意見に収斂している。そうした中で、あまり使えないだろうという回答が多かった用途と思われるものとして、「今までの特別教室でできなかったこと」は5名、「今までのクラスルーム教室ではできなかったこと」、「クラスルーム教室と多目的スペースで役割分担して相乗効果をあげること」の2項目では3名の教員があげている。

これらの回答は、仮設校舎を使い始めて3カ月の時点での回答であり、質問に掲げたような用途を実際に試行した上での回答ではなく、むしろ多目的スペースを見ての第一印象での回答とみなすこともできよう。その点に留意した上でのことではあるが、学校では従来の特別教室やクラスルームの教室の用途以外に多様な学習・行事が行われており、そのためのスペースとしての多目的スペースへの期待、児童の心理面、ならびに活動できるスペースとしてのゆとりを与える場として期待されていることがうかがわれる。こうした多目的スペースの存在に対する期待は、多目的スペースの数が2学年に1箇所では不足しているという意見が半数(6名)の教員から出されていることから推察されよう。

また、スペースの大きさについては、8名がちょうどよい、3名が1.5倍程度必要と答えており、仮設校舎に設けた学年全員が集まって集会を行うことのできる大きさが、多くの教員の支持を得たことから、この大きさを多目的スペースの最小の大きさのめやすとして考えることができよう。

多目的スペースの設えについては、廊下と多目的スペースの間に稼働の間仕切りを設けることについて、廊下と分離するために不可欠とする意見が5名、あれば様々な活用できるとする意見が5名から寄せられ、なくてよいとする意見は2名と少数であった。この理由としては、主に休み時間に多目的スペースで遊んでいる児童を念頭に、廊下を通行する児童と衝突する可能性への危惧、教室で授業が継続している場合の多目的スペースからの騒音の干渉が主たるものとなっている。

児童の遊びについては、大多数の教師が静かな遊び、おしゃべりをあげ、体を使った遊びについては5名があげるにとどまり、こうした遊びに伴う、事故、騒音について危惧を持つ教員が多いという

表1 教師の仮設校舎の多目的スペースの評価

学年教室があることで旧校舎と比べ校舎内にゆとりを感じるか		
	大いに感じる	4
	どちらかというを感じる	8
	あまり変わらない	1
学年教室はどのような分野で使うことができそうか		
ア. 学習面		
	大いに使える	2
	使えそうな用途	
	■大いに使えたと答えた人	
	・グループ学習 (2)	
	・本を使つての調べ学習	
	・学年集合の時	
	・広げて見せる物があるとき	
	・発表練習	
	・ビデオを見るとき	
	・学年で講師の話を聞くと	
	・書初め	
	それなりに使える	8
	使えそうな用途	
	■それなりに使えたと答えた人	
	・グループ学習 (3)	
	・図工・作業等 (2)	
	・グループ発表の練習 (2)	
	・学年集合	
	あまり使えない	1
	回答なし	2
イ. 児童の生活面		
	大いに使える	4
	使えそうな用途	
	■大いに使えたと答えた人	
	・遊び場 (3)	
	・おしゃべり	
	・読書	
	・お話会	
	・給食準備中の係の仕事や打ち合わせ	
	それなりに使える	8
	使えそうな用途	
	■それなりに使えたと答えた人	
	・遊び場 (5)	
	・校庭があったらわからない	
	あまり使えない	0
	回答なし	1
ウ. 行事面		
	大いに使える	2
	使えそうな用途	
	■大いに使えたと答えた人	
	・アートフェスティバル (作品展示) (2)	
	・演劇の練習	
	それなりに使える	8
	使えそうな用途	
	■それなりに使えたと答えた人	
	・作品の展示スペース (5)	
	・学年集会 (3)	

	あまり使えない	2
	回答なし	1
エ. 今までのクラスルーム教室でできなかったこと		
	大いに使える	0
	それなりに使える	6
	使えそうな用途	
	■それなりに使えたと答えた人	
	・作品作り (2)	
	・学年集会	
	・絵の展示スペース	
	・遊び場	
	・図工などの造形活動	
	・グループ活動	
	あまり使えない	3
	回答なし	4
オ. 今までの特別教室でできなかったこと		
	大いに使える	0
	それなりに使える	4
	使えそうな用途	
	■それなりに使えたと答えた人	
	・絵の展示スペース	
	・遊び場	
	あまり使えない	5
	■あまり使えないと答えた人	
	・音の問題がある為、全体としてはあまり使えない	
	回答なし	4
カ. 教室と学年教室の用途を役割分担して相乗効果をあげられそうか		
	大いに期待できる	1
	それなりに期待できる	5
	期待する役割	
	■それなりに期待できると答えた人	
	・学年集会	
	・展示スペース	
	・学年で取り組む時は出入りが自由でよいが、他学年との関係が難しい	
	・いつ使用するかの連絡を上手く運用する必要がある	
	あまり期待できない	3
	■あまり期待できないと答えた人	
	・1学年に1ルームなければあまり期待できない	
	回答なし	3

ことも示されており、児童への作文・アンケート調査で示された遊びの希望とはずれがある。

これらから、教師の意識の中には、自分の担任する学級の運営、授業に最大の関心があり、その妨げとなりそうな要素については極力排除したいという姿勢がうかがわれる。その一方で、学年など、クラスの枠を超えた活動も行われており、そうした活動を行う場所として、また、そうした活動に際して自分のクラスルーム教室が使われずに保護されるような施設のあり方をも、求めていると考えられる。

### ●改築プロセスでの多目的スペースの試用の有効性

仮設校舎の中に多目的スペースを設け、その試用を始めて3カ月の段階においても、多目的スペースが身近にあることによって様々な使い方が行われ、また、教師もその使い方を実感を持って考え、使い始めている様子を見ることができた。このことは、実際の空間があるということが言葉や他の学校の見学などだけでは伝えきれないものを伝えているといえるであろう。この時点での使い方や教員の意識は、学級単位での活動にとっての益・不利益が大きな判断基準になっていることがうかがわれ、多目的スペースの機能を最大限に使いこなすというレベルから見ればもう一段の意識の変革が期待される。

今後、さらに2年間この校舎を使い込んでいく中で、チームティーチングなどの新たな発想からの使い方が生まれてくることも含め、多目的スペースの活用についての経験の蓄積と習熟がなされていくものと期待される。こうした点にも関心を持ちながら、今後とも仮設校舎の使われ方の観察と児童・教職員の意識の動向をフォローアップしていくこととしたい。

### 謝辞

本研究の調査は、平成18年度卒業生の渡邊美穂さんをはじめとする木村研究室の生活環境学科・生活文化学科の卒業生諸君、松沢小学校の教職員、児童、父母、そして世田谷区教育委員会など、関係諸氏の全面的な協力を得て行われたものである。末筆ながら皆様に対し、深甚なる感謝の意を表する次第である。

(きむら のぶゆき 文化創造学科)